

# 朝日求人



ASAHI KYUJIN

## 「知と想像力がある」 パワーである」

猪口邦子が語る仕事—3— 4週連載

いのぐちくにこ ●上智大学法学部教授、エール大学  
政治学博士 (Ph.D)、東京国際政治学、1975年上  
智大学外国語学部卒業、82年エール大学政治学博士  
号取得。ハーバード大学国際関係研究所客員研究員  
などを経て90年より現職。防衛問題研究会委員、行政  
改革会議委員を歴任し、2002年から04年まで軍縮委  
員会 (ニューヨーク国連本部) 委員、03年より国連軍縮  
委員 (ニューヨーク国連本部) 委員、03年より国連軍縮  
委員 (ニューヨーク国連本部) 委員として貢献し、エイボン  
女性大賞受賞。主な著書に『戦争と平和』、『政治学の  
すすめ』、『戦時平和的思考—戦場から職場へ』など。

【日曜版】

朝日求人 15面~18面

### サイバーだった 恩師からの啓発

なぜ女性なのに国際政治学をやるのか、その答えは、男女ともに戦争の悲劇を生きるからです。戦死者や被害者という形であるいはその家族として。その悲劇の深さは同じだからこそ、女性も戦争の問題を考えなくてはならないと思います。

その強い動機を私に与えてくれたのは、桜蔭高校の国語教師、赤星秀子先生でした。授業の内容が大学の文学部に匹敵するほど充実していて、心から尊敬できる優れた教育者だった方です。ある日突然、先生は私に、自分は戦争で夫を亡くし一人で幼子を抱えて生きてきたのだと話してくださいました。わずか5分ほど、それも淡々と。敬愛する先生が戦争の悲劇を生き抜いてこられたという事実は、私にとって重く衝撃的なものでした。戦争の苦しみは男性も女性も背負う。だから、あなたの世代はどこか学問を頑張り、発言をし、この悲劇を再び起こさないで欲しいというバトン

を渡されたのだと思います。小学生時代、父が家族を連れて南米に転勤したので、私は国語の力に自信がありませんでした。あるとき赤星先生は授業の最後の15分間で「すごい日記を書いている人がいるから」と私の文章を匿名で読んでくださった。その子のコンプレックスを金輪際取り除いて、自分の能力と向き合えるようにしようとした、教師としての驚くべき技術。進むべき道と文章への自信を得た高校時代が私の仕事の原点になりました。女子校における女子教育は、限りなく尊い仕事です。先生は生涯を女子生徒を啓発するという尊い仕事に生きてくださったのです。2008年の春、軍縮大使としてジュネーブに着任した数週間後に先生の病死の報に接し、私は生徒として涙が止まりませんでした。

### 知ることは 超えること

これからは知識業約型の時代です。学識と知識を持つことにより新しい地平は開かない。19世紀

は軍事力の時代、軍艦を差し向けて相手をいう通りにさせるやり方でした。20世紀は経済力だったでしょう。では21世紀は何によって動くのかといえば、知識です。知識に共感する人たちが各方面で行動を起こして政策変更を可能にしていく。一つの国の中でも、国際社会でも、知識に基づいて認識形成がなされ評価や判断が決まっていくようになります。

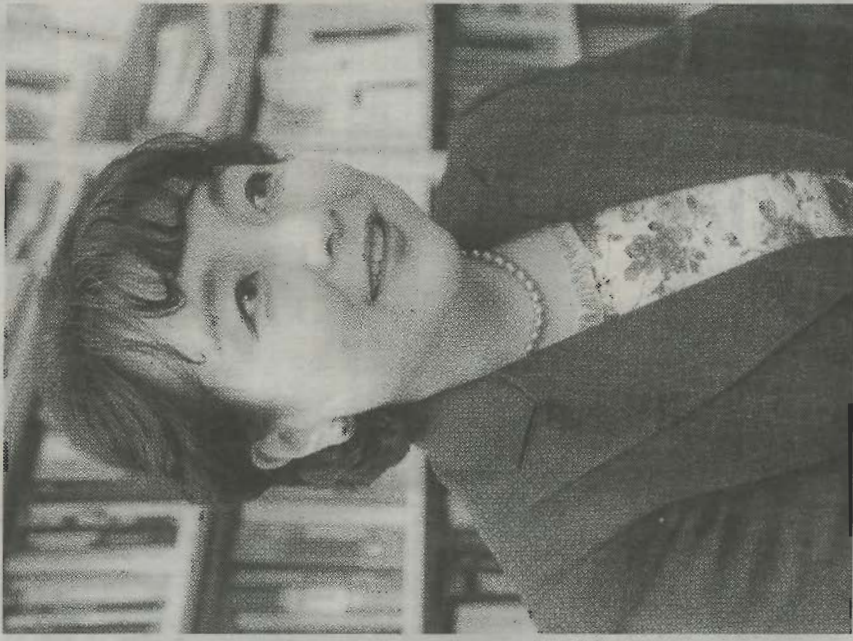
世界各国、それぞれ個別具体的に問題を抱えています。自国の問題に共感してもらうためには、より抽象的な概念整理ができなくてはならない。たとえば地雷、小型武器、そして核兵器などの被害者であると主張するだけでなく、それを共通理解のテーブルに載せる必要があるのです。そこには学問的作業の貢献の余地が大いにあります。

ビジネスの現象は情報というのかもしれませんが、どちらも知を得ること。それもしっかり土台となる真と實の知識が必要なのです。知は力なり。それは互いの力を開き、理解し合った力の場です。



アサヒジョブプラットフォーム <http://www.asahi.com/job/> (祝日除く) 月~金 AM9:30~PM5:30 (受付時間) ☎03-5540-7773 (メディア推進部) お問い合わせ先: メディア推進部 朝日求人係

# 猪口 邦子



「朝日球人」の各コーナーに対するご意見、ご感想をお寄せください。あて先：〒104-8665 東京